

教育子ども委員会(9月21日) さいとう愛子議員

## 学校統廃合

# 時間かけ 丁寧な説明で住民合意を



9月21日の教育子ども委員会で、市立学校設置条例の一部改正について審議され、さいとう愛子議員が質問しました。

### 名城小と御園小の統合 地域の合意を得るまで12年

今回の改正は、市立名城小学校と御園小学校を統合し、市立丸の内小学校を設置するものです。両校の統合計画は、「小規模学校対策に関する実施計画」にもとづいて、2010年から、話し合いが行われました。しかし、統合のための協議の場である2校合同検討委員会の設置までに8年間。その後、合同検討委員会で2年間で9回にわたって議論を重ねました。統合の必要性について理解を得て、統合時期、学校名などを検討し、今回の条例改正まで12年を要しました。

### 「教育委員会が責任を持って取り組む」 (教育委員会)

さいとう議員は、「地域の皆さんの合意を得るには12年という時間は必要な時間だった」と述べ、「今回の統合において地域の理解をどのように得たのか」「現在進めている『ナゴヤ子どもいきいき学校づくり計画』と違いはあるのか」と質問しました。教育委員会は「御園小・名城小の統合では統合決定の合意形成を地域の皆さんや保護者が担っていたので負担をかけた」「現在のナゴヤ子どもいきいき学校づくり計画」ではこの手法を見直して、教育委員会が責任を持って取り組む内

容になっている」と統合の進め方に違いを説明しました。続いて、「今回の御園小・名城小の統合では、保護者や地域の皆さんに小規模校の課題、取り組みの必要性や効果などを丁寧に説明を重ねたうえで最終的には教育委員会がその責任において統合計画を決定したことによってご理解をいただけたと認識している」と述べました。

### 丁寧な協議と理解で 住民の合意を

最後に、さいとう議員は、教育委員会に「学校はコミュニティの中心であり、防災拠点。学校の統廃合は地域の住民全体に大きく影響する。だからこそ、御園小と名城小の統合では、12年という時間をかけ、丁寧に協議し理解を広げたことで合意形成ができ、新しい学校の設置に至った」ということを確認しました。

### 高坂小としまだ小の統合 住民の理解を得ないまますすめるのか

9月29日には、第3回高坂小学校としまだ小学校の統合による新しい学校づくり懇談会が開催されます。通学区域の柔軟な対応、統合校の施設整備、通学路案について(しまだ学区から高坂小学校まで)、統合校の校名募集についてなどが議題です。地域の皆さんからは、統廃合計画への反対意見や不安・疑問が寄せられています。両校の統合は、保護者や地元住民の理解を得ないまま進めるべきではありません。